



第 1 5 9 期救急科を実施しました

[期 間] 令和 8 年 6 月 5 日（金）から 7 月 2 3 日（木）まで
3 4 日間

[会 場] 埼玉県消防学校
所属消防本部（局）

[到達目標] 救急医学に関する基礎知識に基づき、応急処置時における的確な
観察・判断能力、応急処置に必要な専門的スキルを修得し、救急隊
員として活動できる。

[教育対象] 救急業務に従事させようとする者（日赤救急員の有資格者、初任
教育救急講習修了者又はこれらと同等以上の知識技能を有する者）

[修 了 者] 2 4 消防本部（局）8 1 名
平均年齢 2 4 . 2 歳

埼玉県消防学校 第159期救急科 日課表

令和8年6月5日（金）～令和8年7月23日（木）
34日間 272時間

受講場所 埼玉県消防学校 大講義室

	日	曜日	1 時限 8:30～9:20	2 時限 9:20～10:10	3 時限 10:10～11:00	4 時限 11:10～12:00	5 時限 13:00～13:50	6 時限 13:50～14:40	7 時限 14:50～15:40	8 時限 15:50～16:40
座学	6/5	金	入校式	ガイダンス (担当教官)			救急活動（法規） (戸田市消防本部 講師)			
	6/8	月	循環器・出血 (川口市消防局 講師)				神経 (深谷市消防本部 講師)			
	6/9	火	消化器 (西入間広域消防組合消防本部 講師)			呼吸器 (行田市消防本部 講師)			救急医療 (医療整備課)	
	6/10	水	効果測定① (担当教官)	泌尿・生殖器 (埼玉東部消防組合消防局 講師)			運動器 (埼玉県央広域消防本部 講師)			社会保障・社会福祉Ⅰ (国保医療課)
	6/11	木	観察 (さいたま市消防局 講師)				内分泌・代謝 (埼玉県南西部消防局 講師)		皮膚・感覚器 (吉川松伏消防組合消防本部 講師)	
	6/12	金	ショック (熊谷市消防本部 講師)				CPA・CPR (蕨市消防本部 講師)			
	6/15	月	血液・体液・熱中症 (埼玉県南西部消防局 講師)			資機材取扱	熱傷・電撃症・救急搬送 (埼玉西部消防局 講師)			
	6/16	火	応急処置総論・各論 (埼玉西部消防局 講師)				細菌・感染症・感染防止・消毒 (上尾市消防本部 講師)			
	6/17	水	急性心血管系疾患 (比企広域消防本部 講師)				急性呼吸器疾患 (児玉郡市広域消防本部 講師)			
	6/18	木	急性腹部疾患 (羽生市消防本部 講師)				脳血管障害 (草加八潮消防局 講師)			
	6/19	金	一般外傷各論 (春日部市消防本部 講師)				意識障害 (熊谷市消防本部 講師)			
	6/22	月	頭部・顔面外傷 (秩父消防本部 講師)				胸部外傷 (三郷市消防本部 講師)			
	6/23	火	腹部外傷 (蓮田市消防本部 講師)				集団災害 (川越地区消防局 講師)			
	6/24	水	脊椎・脊髄損傷 (埼玉西部消防局 講師)				外傷総論・その他外傷処置 (埼玉東部消防組合消防局 講師)			
	6/25	木	効果測定② (担当教官)	検査・高齢者 (坂戸・鶴ヶ島消防組合消防本部 講師)			処置各論（在宅療法） (入間東部地区事務組合消防本部 講師)			
	6/26	金	急性中毒 (川口市消防局 講師)			鑑識 (埼玉県警察)	処置各論（心電図） (埼玉県央広域消防本部 講師)			
	6/29	月	小児救急医療 (さいたま市消防局 講師)				産科・周産期 (草加八潮消防局 講師)			
	6/30	火	精神救急 (上尾市消防本部 講師)			社会保障・社会福祉Ⅱ (社会福祉課)	四肢・骨盤外傷 (越谷市消防局 講師)			
	7/1	水	異物・溺水 (越谷市消防局 講師)			接遇 (さいたま市消防局 講師)	安全管理		実技訓練概要 (担当教官)	

訓練場所 埼玉県消防学校 大講義室 屋内訓練場

			1 時限 8:30～9:20	2 時限 9:20～10:10	3 時限 10:10～11:00	4 時限 11:10～12:00	5 時限 13:00～13:50	6 時限 13:50～14:40	7 時限 14:50～15:40	8 時限 15:50～16:40
実技	7/2	木	資機材取扱訓練				6 ブース基本訓練			
	7/3	金	外傷訓練（資機材取扱）・CPR対応訓練				内因訓練（各種評価・観察問診・気道管理）			
	7/6	月	内因訓練（意識レベル評価・バイタル測定）				外傷訓練（状況評価・初期評価）・CPR対応訓練			
	7/7	火	外傷訓練（腹臥位3想定）・AED4波形訓練				内因訓練（喉頭展開訓練）			
	7/8	水	内因訓練（喉頭展開訓練・SSN訓練）				外傷訓練（全身観察・緊急処置）			
	7/9	木	ストレッチャー曳航訓練・トリアージ訓練 車外救出訓練				内因訓練（各種症例）			
	7/10	金	外傷訓練（初期評価～全身観察） CPR対応訓練				内因訓練（各種症例）			
	7/13	月	外傷訓練（指令～ファーストコール） 小児・乳児CPR対応訓練				産婦人科救急訓練			
	7/14	火	内因性シミュレーション							
	7/15	水	外因性シミュレーション							
	7/16	木	効果確認シミュレーション							
	7/17	金	総合シミュレーション							

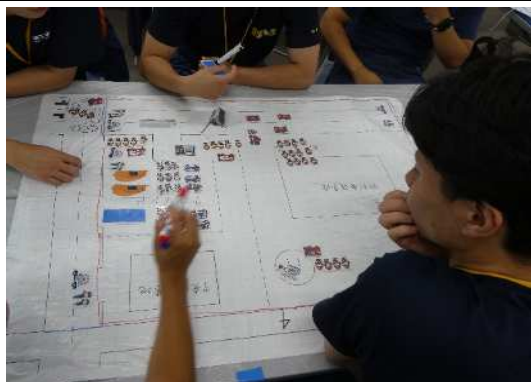
受講場所 所属消防本部（局）

実技	7/21	火	現 場 実 習							
	7/22	水	現 場 実 習							

受講場所 埼玉県消防学校 大講義室

	日	曜日	1 時限 8:30～9:20	2 時限 9:20～10:10	3 時限 10:20～11:10	4 時限 11:10～12:00	5 時限 13:00～13:50	6 時限 14:00～14:50	7 時限 15:00～15:50	8 時限 15:50～16:40
座学	7/23	木	R・I （埼玉県衛生研究所）		資機材取扱		社会保障・社会福祉Ⅲ （地域包括ケア課）	救急交通 （埼玉県警察）	修了式 （担当教官）	

集団災害机上訓練



ストレッチャー取扱い説明展示



心肺蘇生訓練



気道異物除去訓練



階段想定訓練



車外救出訓練



産科実技訓練



車内活動訓練



修了しての感想

第159期救急科の学生のため、日々の業務が忙しい中、救急に関する知識・技術をご指導してくださいました学校教官、支援教官、講師の方々に感謝を申し上げます。

救急科では、基本を学ぶ大切さ、学んだ基本を磨き上げてしっかりとした基礎を築く大切さを学びました。今後は、この救急科で学んだ基本手技を更に高めていき、1人でも多くの住民の命を救えるよう自己研鑽に励んでいきたいです。



後輩へのメッセージ

災害現場には傷病者がいて、その傷病者の命を救い、社会復帰へ繋げることが消防士の使命だと私は思っております。どの部隊に所属していても傷病者とは切っても切れない関係でありますので、この研修での1日1日を無駄にせず大切に過ごし、立派な消防士を目指してください。

修了しての感想

このたびは第159期救急科の第2小隊総代を仰せつかりました、さいたま市消防局の関です。

本救急科では、自分自身が座学・実技訓練を全力で取り組み知識・技術を高める事はもちろんですが、総代という立場で教官・支援教官・第1小隊総代や仲間達（他の学生）が相互にコミュニケーションが円滑に取れることを主眼に置き行動しました。約2ヶ月間の救急科を通して概ね総代としての責務は果たせたのではないかと感じております。

さて、救急とは心臓マッサージなどを施し救命する事だと思っておりましたが、救急科を修了した今では困っている人に対し手を差し伸べることであると感じております。これは救命活動のみではなく、軽症や無症状者に対しても不安や心配事を取り除くことで心の救命になるため、大変に大事だと感じました。困っている人を助けるということは消防人として以前に人として当たり前ですが、その当たり前のことを当たり前に出るためには相当の準備が必要だと感じました。今後も訓練や新しい知識・技術の習得を自ら行い、日進月歩の救急医療分野に少しでも取り残されないようにしたいと思います。

まとめになりますが、傷病者やその家族に対して目を見て、「私の全力を出し切り、やれることは全てやった。」という嘘偽りのない言葉を言えるような努力を続けている消防職員になりたいという思いを新たにした救急科でした。我々学生が少しでも多くの学びがあるようにとたくさん準備してくださった全ての方々に感謝すると同時に、得た技術・知識を活用して人を救うことで恩返しをしたいと思っています。



後輩へのメッセージ

救急科の座学は初めて学ぶ内容で難しい内容だと思いますが、人を救うためには人体を知り、病気を知り、資機材を知る必要があります。難しくても実技訓練などでは、「こういうことだったんだ。」や「こういう所に繋がるんだな。」など多くの気づきがあると思います。救急科の期間中にできるだけ多くの気づきを得るのと同時にたくさんの分からないことを分かってください。そして、それを百戦錬磨の支援教官に質問し自分の糧としてください。

私自身、救急科期間中に自宅前で多重交通事故が発生し複数の重傷者が発生する事案に遭遇しました。救急科で外傷の訓練をたくさん実施していたので落ち着いて【訓練通り】の活動ができ命のバトンを管轄消防本部に繋ぎました。この事案を通して訓練の重要性を改めて実感しました。

訓練で学んだことは自分の自信になります。自信は自分の背中を押してくれます。仲間と共に訓練に没頭できる環境を大事にしつつ、人を救える人になれるように頑張ってください。

修了しての感想

教官方をはじめ、同期の仲間や救急科に送り出してくださった所属等、多くの方々に支えられて、救急科を修了することができました。皆さまに心より感謝申し上げます。教官方からは知識や技術に加え、救急に対する熱い気持ちを授けていただきました。救急現場における私たちの活動が、傷病者の命だけでなく、人生を救うことができるかもしれないこと。そのために傷病者一人ひとりと全力で向き合う大切さを学ぶことができました。

切磋琢磨できる同期の仲間と出会えたことも、かけがえない宝物となりました。

教官方や同期の仲間に再会したとき、成長した姿を見せられるように精進して参ります。ありがとうございました。



後輩へのメッセージ

救急科は、座学を頑張った人ほど想定訓練を楽しめると感じました。復習が大切です。また、難しいと感じることも、教官や仲間の力を借りれば必ず乗り越えることができます。皆さんも笑顔で卒業できるよう、応援しています！

修了しての感想

この救急科での日々を振り返り、まずは支えてくださった教官の方々、そして共に切磋琢磨した仲間に深く感謝いたします。副総代という大役を任せていただいたことで、自分自身の学習はもちろんのこと、円滑な連携を図ることの難しさと重要性を身をもって学ぶことができました。

教官のご指導や、仲間同士で知識・技術を共有し協力することでチームで一つの目標に向かうことの意義を深く実感しました。座学で得た知識が実技で結びついた瞬間の喜びは、今後の消防人生においても大きな財産になるはずです。この救急科で培った「学んだ知識のたくさんの点を線として繋げる」という意識を胸に、所属へ戻っても自己研鑽に励み、市民の皆様の安心を守る力となれるよう努力を続けていきたいと思います。



後輩へのメッセージ

救急科での日々は、単なる知識習得の場ではありません。年齢や所属の異なる多様な仲間が集まり、共に汗を流しながら絆を深められる、非常に貴重な機会です。

実技では、思いどおりにいかず悔しい思いをすることもあるかもしれませんが、分からないことは素直に聞き、できないことは仲間と補い合う。そうした姿勢で積極的に取り組めば、必ず、点と点が線として繋がり、理解が深まることで皆さんのこれからの消防人生を支える強固な基盤となります。一日一日を大切に、良き仲間と共に、実りある充実した期間にしてください。応援しています。